



書評

〔評者〕

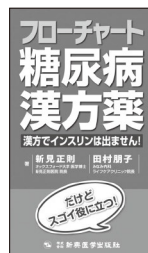
松本 一成

松本メディカルコミュニケー
ションズ

フローチャート糖尿病漢方薬 漢方でインスリンは出ません！

新見 正則，田村 朋子 著

●B6 変型判 頁 180 2022 年 8 月
定価：3,300 円（本体 3,000 円＋税 10%）
[ISBN 978-4-88002-881-1] 新興医学出版社刊



私は長年、糖尿病専門医として診療をしてきましたが、これまで漢方薬にはあまり関心がありませんでした。それは、漢方薬には糖尿病患者さんの血糖値を下げる効果が期待できなかったからです。実は本書の表紙にも、「漢方でインスリンは出ません！」と書いてあります。それでは、なぜ糖尿病漢方薬の本が上梓されたのだろーと思いつながら本書を読んでみました。

本書のフローチャートは自覚症状別に並んでいます。食欲・女性・疲れ・運動・便秘・合併症・その他という具合です。このフローチャートに沿って調べてみると、例えば「がっちりタイプの女性の更年期不調」には補中益気湯を 1 回 2.5 g，1 日 3 回，2 カ月を目安に継続，と記載されています。したがって，患者さんの自覚症状から推奨される漢方薬の種類・用量・投薬期間が簡単にわかります。

自律神経の調節障害が，倦怠感，頭痛，肩こり，不眠，めまい，下痢，便秘など多彩な症状を引き起こすという説があります。そして，糖尿病は神経細胞にダメージを与える疾患なので，自律神経の障害による体調不良が出現してもおかしくないと思います。しかしながら，それを診断する簡易で適切な検査方法がありません。結局は患者さんの自覚症状を丁寧に傾聴し，身体診察

で診断を補っているのが現状です。治療となると，さらに難しく，どんな薬物を使えばよいのかが皆目わかりません。これまで，対症療法を繰り返すだけでなかなか有効な手段がありませんでした。今回，本書を読んでみて，自律神経障害と思われる不調に「漢方」は有りだなと思いました。患者さんと相談のうえで適切な漢方薬を選択し，その結果患者さんの体調がよくなれば大変嬉しいことです。

著者の田村先生は糖尿病専門医です。そして，本書には糖尿病専門医ならではの視点があります。例えば，アクトスやインスリンの開始時期には浮腫をきたしやすいので甘草の使用には注意を要する。同様に，GLP-1 受容体作動薬やビッグアナイド，アルファグルコシダーゼ阻害薬など胃腸症状が出やすい薬物を使用する際には地黄の使用に注意を要するなどです。

実は，田村先生と私は糖尿病患者さんが主体的に自己管理に取り組めるように，医療にコーチングを取り入れることに尽力する仲間同志です。本書にはコーチングのスキルの記載もあり，コーチングと漢方によって患者さんの行動変容を支援することもできそうです。本書は，糖尿病の臨床現場に新たな視点を与えてくれる一冊だと思います。